

放流用種苗育成手法開発事業(平成26年度 / 国庫委託)

溪流漁場における釣獲と釣り人の実態

誌名	栃木県水産試験場研究報告
ISSN	13408585
著者名	高木,優也 網川,孝俊
発行元	栃木県水産試験場
巻/号	59号
巻号補足	
掲載ページ	p. 40-41
発行年月	2016年2月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター

Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



一 溪流漁場における釣獲と釣り人の実態一

目 的

2013 年には、大量のヤマメの成魚放流によって集客する県西部の溪流漁場でアンケート調査を実施した。¹⁾この漁場では、成魚放流日と放流量が全て公開されており、釣り人は放流日に集中する。このことから、ヤマメの成魚放流漁場は一般的な溪流漁場とは言い難い。今回調査した県北部の溪流漁場は、年間放流量を遊漁者へ公開しておらず、成魚放流日も一部を除いて非公開である。放流量や河川規模からも、比較的一般的な山地溪流漁場と言える。

そこで、この漁場をモデルとして一般的な溪流漁場における釣獲と釣り人の実態を調査した。また、ヤマメの成魚放流漁場と一般的な溪流漁場では、釣り人の実態や釣獲魚の持ち帰りの割合が異なる可能性が考えられるので、それらを比較した。

材料および方法

調査場所 調査は栃木県北部の利根川水系男鹿川・鬼怒川（おじか・きぬ漁協管内の全漁場）を対象とした（図 1）。

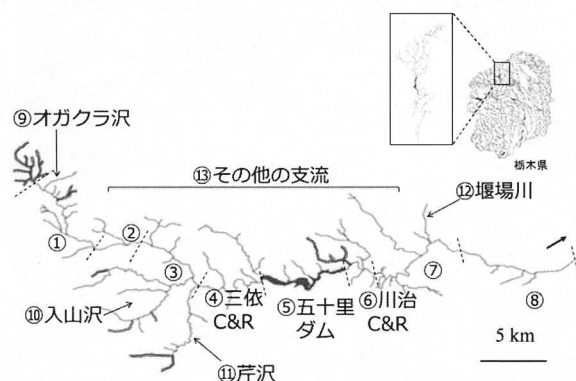


図 1 おじか・きぬ漁協管内模式図

網掛け部分は、禁漁・休漁河川を示す。釣行場所は①～⑬の番号で記録を依頼した。

アンケート調査 アンケートの構成は釣獲状況（釣り方、釣行日、釣行場所、釣獲尾数、持ち帰り尾数）の記入欄と釣り人の属性（年齢、性別、住所、溪流釣り歴など）や漁獲規制に対する意識に関するいくつかの質問からなる。これを釣り券の販売所において、年券および日券の購入者に配布した。年券購入者（以下、年券者）には 1 年間の釣行全てについて、日券購入者（以下、日券者）にはその日の釣行について回答を依頼した。

結果および考察

アンケートの回収 年券者 62 名（女性 2 名）、日券者 110 名（女性 1 名）から 710 釣行日分の回答を得た。年券の回答者の内訳は、組合員 2 名、遊漁者 38 名、不明 20 名であったため、組合員と遊漁者は区別せずに解析を行った。

釣獲実態 アンケート結果と 2014 年のおじか・きぬ漁協の発券枚数（年券：859 枚、日券：2,648 枚）から、年間の出漁者数と釣獲尾数、および持ち帰り尾数を推定²⁾した（表 1）。

出漁者数と釣獲・持ち帰り尾数の推定 年間で延べ 11,099 人の釣り人が、88,001 尾のヤマメ・イワナ・ニジマス釣獲し、42,645 尾を持ち帰ったと推定された。このうち、出漁者数の 76%、釣獲尾数の 83%、持ち帰り尾数の 90%を年券者が占めていた。

釣獲尾数に対する持ち帰り尾数の割合（以降、持ち帰り率）は、ヤマメで 45%、イワナで 64%、ニジマスで 29%であった。ヤマメとニジマスの持ち帰り率が低いのは、キャッチ&リリース区間への放流量が多く（イワナは放流されていない）、その区間での釣獲が多い（ヤマメの 21%、イワナの 2%、ニジマスの 67%がキャッチ&リリース区間での釣獲）ことの影響が大きい。ヤマメの成魚放流漁場（前掲）では、ヤマメの持ち帰り率は 84%であった。この結果と比較すると、キャッチ&リリース区間の影響がほとんどないと考えられるイワナであっても、本漁場における持ち帰り率は低い。

表 1 年間の出漁者数と釣獲尾数、および持ち帰り尾数の推定値

	出漁者数 (人)	ヤマメ		イワナ		ニジマス	
		釣獲	持ち帰り	釣獲	持ち帰り	釣獲	持ち帰り
年券者	8,451	27,696	13,176	28,915	19,286	16,321	5,970
cv	0.08	0.16	0.24	0.27	0.38	0.21	0.39
日券者	2,648	5,922	1,854	4,502	2,215	4,646	144
cv	0	0.20	0.29	0.23	0.29	0.18	0.46
合計	11,099	33,618	15,030	33,417	21,501	20,967	6,114
cv	0.06	0.13	0.21	0.24	0.34	0.17	0.38

単位：尾、cv：変動係数

釣り人の実態 アンケート回答者の住所を県別に見ると、日券者、年券者ともに栃木県内の釣り人が最も多かった（図 2）。ただし、県内と県外で区分すると、県外からの釣り人が日券者の 72%、年券者の 52%を占めていた。県外の釣り人が 34%であったヤマメの成魚放流漁場（前掲）と比較すると、本漁場は県外からの釣り人が多い漁場であると言える。

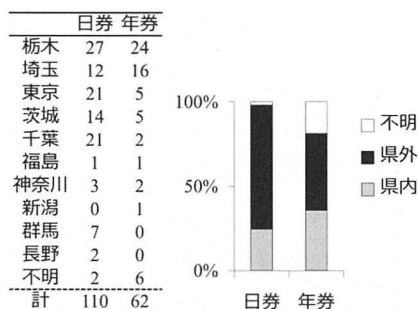


図2 アンケート回答者の住所

アンケート回答者の釣り方は、日券者ではフライ、年券者ではエサ釣りが最も多かった（図3）。エサ釣り以外の釣り方は、日券者で47%，年券者で49%を占めていた。年券者で釣り方別の合計が釣行日数の合計を超えているのは、複数の釣り方を釣行日や釣行場所で使い分ける釣り人が含まれるためである。エサ釣りが90%を占めていたヤマメの成魚放流漁場（前掲）と比較すると、本漁場はエサ釣り以外の釣り方の釣り人が多い漁場であると言える。

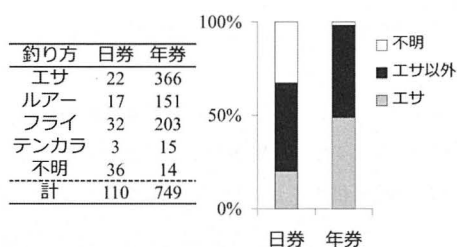


図3 アンケート回答者の釣り方

アンケート回答者の年齢構成は、60歳以上が30%，50歳以上60歳未満が33%，40歳以上50歳未満が27%，40歳未満が10%であった。このように、40歳未満の釣り人が少なく、渓流釣り歴が長い釣り人が多い（85%が渓流釣り歴5年以上）という傾向が見られた（図4）。60歳以上の釣り人が57%を占めていたヤマメの成魚放流漁場（前掲）と比較すると、本漁場は60歳未満の釣り人の割合が高かった。ただし、新規の釣り人の加入が少ないままに高齢化が進行していく可能性も十分考えられる。年齢構成の推移を注視していくとともに、40歳未満の釣り人や渓流釣り歴が短い釣り人の取り込みも図っていく必要がある。

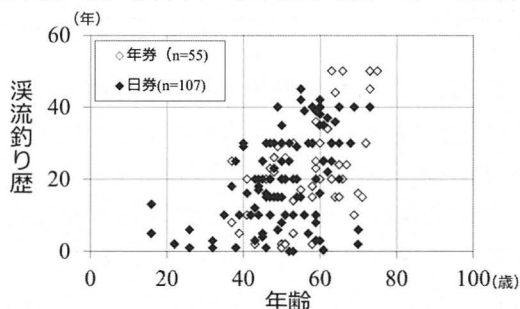


図4 年齢と渓流釣り歴の関係

引用文献

- 1) 高木優也, 綱川孝俊, 久保田仁志. ヤマメの成魚放流による渓流漁場運営の有効性の検証. 栃木水試研報 2015; 58: 29-30.
- 2) Kitada S, Tezuka K. Longitudinal logbook survey designs for estimating recreational fishery catch, with application to ayu (*Plecoglossus altivelis*). *Fish. Bull.* 2002; 100: 228-243.

(指導環境室)

調査試験報告要旨

尾を持ち帰ったと推定されました。県外からの釣り人が多く（日券者の 72%，年券者の 52%），ルアー・フライなどのエサ釣り以外の釣り方の釣り人が多い（日券者で 47%，年券者で 49%）という特徴が見られました。また，40 歳未満の釣り人が少なく，溪流釣り歴が長い釣り人が多い（85% が溪流釣り歴 5 年以上）という傾向が見られました。

放流用種苗育成開発事業－溪流漁場における釣獲と釣り人の実態－（p40-41）

県北部の溪流漁場をモデルとして，アンケートにより釣獲と釣り人の実態について調査しました。その結果，年間で延べ 11,099 人の釣り人が，88,001 尾のヤマメ・イワナ・ニジマスを釣獲し，42,645